

ノーサイド

禍害と被害を超えた論理の構築

(3 3)

中村周平

これまでに引き続き、首を痛めてしまった後、知人の方を通じて教えていただいたPC入力の方法について触れていきたいと思います。

連絡を取らせていただいた知人の方から教えてもらった方法の一つは、エアマウスというものでの入力でした。自分の体で動かしやすい場所に装着した発信機を動かすことで、USBでPCに接続した受信機にその動きが信号として送られ、マウスポインターの動きに変換されるというものです。

当該装置のホームページの内容をそのまま説明しているので分かりにくいかもしれ

ませんが、要するに自分の動かしやすい場所、私の場合は頭になるのですが、そこにマウスに近いものを装着し、それを動かすことで画面上のマウスポインターを動かせるという代物でした。知人の方から、「まずデモ機を借りて試してみたら良い」、というアドバイスを受け、インターネットで申し込みをしたところ、1週間もしない間に自宅にデモ機が届きました。説明書に従ってセッティングを行い、実際にパソコン操作を行っていきました 確かに頭を右に傾ければ右に、左に傾ければ左にマウスポインターがゆっくりと動いてくれました。また、その速度も自由に設定することが可能で、クリックやドラッグについても、そ

の場に数秒停止させることで、その機能を発揮できました。さらに、販売会社が出しているアプリを活用することで、その操作を簡略化することもできました。

試行錯誤しながら、数日その装置を試した結果、最終的に自分に合っているものではないということがわかりました。一番の要因は、自分の動きやすい場所として頭の部分を使うことでした。それによってより鮮明な動きにつなげることができたのですが、首を痛めてしまった自分にとっては、十分に活用することができませんでした。

ただ、この方法については、知人の方からも付則として教えていただいた情報であり、本命は次の視線入力装置でした。こちらの装置もインターネットから申し込みをして一週間以内に自宅に届きました。

視線入力装置も私が知らないだけで、おそらく様々な種類のものがあると思うのですが、この知人の方から教えていただいた装置は、パソコンのUSBにつなぐだけで、どのパソコンでも使えるという優れものでした。USBにつないだ後、パソコンの画面の下に設置する(マグネットが付いているためにパソコンの画面にそのまま貼り付けることができる)だけで セッティングは完了になります。あとはひたすら、その装置を使って自分の視線の癖や動きをパソコンに覚えこませていきます。画面上に9つの点が現れ、それをパソコンが指示する順番に視線を合わせていくと、不思議なことに自分の視線が集まったところに、センサーが反応した後か残り、またそれを繰り返すことで、その反応はより速く、より正確になっていきました。自宅に届いてから2日もしない間に、視線入力だけで、左クリック、右クリック、ドラッグ、ダブルクリックといった機能を使いこなすことができました。そして、慣れてくると自分が視線を送ったところに、そのマウスポインターが行き、そこで必要な操作をしてくれるので、これまでマウススティックでやっ

ていた方法と変わらないぐらいのスピードで、パソコンを操作することができました。 能な限り切り詰め、この装置を購入することになりました。

「今、首を痛めてしまった自分にとってこの方法が一番合っているのではないか。他に方法もあるかもしれないが、これからの研究活動や仕事をこなしていく上で、少しでも早く自分が使える方法を実践していきたい」

そのような思いもあって、この視線入力装置の購入を現実的に考えていくようになりました。ただ、購入にあたり、一番の問題はその金額にありました。具体的な金額は避けたいと思いますが、それこそパソコンを1台購入するぐらいの金額でした。今の自分の経済的な状況を考えた時、決して安易に承諾できる金額ではありませんでした。最終的に、ここで時間を無駄にしまふことと、これを使って自分のしなければならないこと、したいことができる、を天秤にかけた時、購入することを一番に考えたいと思いました。そして、生活費を可